



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 006 June 14, 2004

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●インドネシア、米国産牛肉の輸入を再開

インドネシアは、昨年12月23日の米国におけるBSE発生以来、米国産牛肉の輸入を禁止してきたが、このたび輸入禁止措置を解除した。カナダ、メキシコに続いての早期解禁となる。

インドネシアは、ほとんどの牛肉をオーストラリアやニュージーランドから輸入している。米国からの輸入量は4%程度だが、先週の国際獣疫事務局(OIE)の総会で行なわれたBSEの国際安全基準の見直しの結果、米国が感染危険国リストから外されたことにより、輸入再開を決定した。これによって、他国の輸入再開が促進されるとの見通しもある。

※2004年6月1日 AgWeb News

米国食肉市場ニュース

～牛肉～

牛肉市況(5月24日～28日)

●週間と畜頭数：69.9万頭(前年比5.7%増)。

●肥育牛の取引価格(100ポンド[約45kg]当たり)：

主要5市場では、平均85.15ドル(先週比0.88ドル減)。

枝肉価格は平均135.40ドル(同2.05ドル減)。

●牛肉価格：先週より低い。歩留まり等級3(YG3)のチョ

イスは147.06ドル(先週比5.64ドル安)。YG2～3

のセレクトは130.38ドル(同4.76ドル安)。

主要12州¹⁾のフィードロット内頭数²⁾、前年比1.7%減

(2004年5月1日現在)

	2004年 ³⁾	対前年
4月1日現在フィードロット内頭数 ⁴⁾	10,748	100.3%
4月導入頭数	1,603	85.7%
4月出荷頭数	1,894	95.4%
4月のその他の消失 ⁵⁾	97	154%
5月1日現在フィードロット内頭数 ⁴⁾	10,360	98.3%

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、100ポンド(約45kg)当たりの価格(US\$)

体重(ポンド)	5月24～28日
400～500	123.00～136.00
500～600	110.00～127.50
600～700	106.75～120.00
700～800	103.00～115.50
800～1000	92.00～108.25

※2004年5月28日Cattle Outlook (Glen Grimes & Ron Plain)

注:1.アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン

2.収容頭数1,000頭以上。

3.単位:1,000頭。

4.穀類あるいは他の濃厚飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。

5.死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。

※2004年5月24日Cattle On Feed (Glen Grimes & Ron Plain)



米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (5月24日～28日)

●週間と畜頭数：187.7万頭 (前年比24%増)。

メモリアル・デー (祝日・5月31日) を控え、去年の同週と比べて大幅に増えた模様。

●肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は、先週比

2.50～4.00ドル高。

100ポンド (約45kg) 当りの豚肉製品価格 (4月30日/US\$)

主要市場における100ポンド (約45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

185ポンド物 (約83.5kg) の枝肉平均価格 (US\$)

	5月28日
ペオリア	51.00
セントポール	51.50
スーフォールズ	—
ミズーリ中央部	52.50

	5月28日
東部トウモロコシ地帯	74.52
西部トウモロコシ地帯	73.41
アイオワ・ミネソタ	72.99
全国	74.09

製品名	価格 (先週比増減)	備考
ロイン	128.11 (-22.39)	トリム1/4インチ
ポストン・バット	86.00 (-16.45)	トリム1/4インチ
ポークベリー	116.20 (-7.80)	14～16ポンド物 (約6.3～7.3kg)
ハム	60.00 (+2.80)	17～20ポンド物 (約7.7～9.1kg)

※2004年5月28日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

セーフティー関連
ニュース

●USDA、試験計画を始動

米国農務省 (USDA) は、牛の脳をはじめとする特定部位 (SRM) を、バイオ燃料として利用するシステムの開発普及計画を試験的に開始した。小規模農場を対象として、同システム設置を目的とした5,000万ドルの融資枠を設ける。

食品医薬品局 (FDA) は、管轄内の食品にSRMの使用を禁止しているが、膨大な量が排出されるこのSRMについて、食物や飼料以外での利用法が模索されている。

USDAはこの計画によって、SRMの新たな商業的価値や可能性を探りたいとしている。

融資の申し込み締切は今年8月16日となっている。

※ 2004年5月24日 Cattle Buyers Weekly

●FSIS、O157予防のワークショップを開催

食品安全検査局 (FSIS) は、出血性大腸菌 (O157:H7) の感染予防強化を目的に、全米の小規模工場向けにワークショップを開く。今年9月11日まで開かれるこのワークショップは、工場の経営者や技術者を対象に行われるもので、感染予防に関する3つの新しい規定や、安全性を維持するための技術・情報の説明が行われる。また、検査官が工場を視察する際の最新検査基準も発表される。

※ 2004年5月26日 Meatingplace.com

●NCBA、米国消費者のBSEに対する反応を調査

全国肉牛生産者・牛肉協会 (NCBA) が、今年4月までに実施したBSEに関する米国の消費者意識調査によると、消費者のビーフの信頼度は、BSEの発見と報道によってもほとんど影響されていないことがわかった。

この理由として、平常時の政府・業界によるBSE及び食の安全性全般における消費者教育や、ホームページ・配布物などによる情報提供努力が信頼を支えていることが挙げられる。つまり、情報のタイムリーな開示と消費者に対する積極的な働きかけが効を奏していると思われる。

※詳しい調査結果は、3Pのグラフをご覧ください。



業界ニュース

●USMEF総会概要

5月26日から28日の間、米国オハイオ州シンシナティーで米国食肉輸出連合会 (USMEF) の総会が開催され、アメリカの業界、政府関係者約200名が参加した。初日の全体会議では、セング会長が海外市場での動きも含めBSE関連活動の現状を報告したほか、在ワシントン日本大使館、榎本農務参事官による日本の農産物外交の現状報告、同メキシコ大使館農務官による対米貿易の近況報告が行われた。

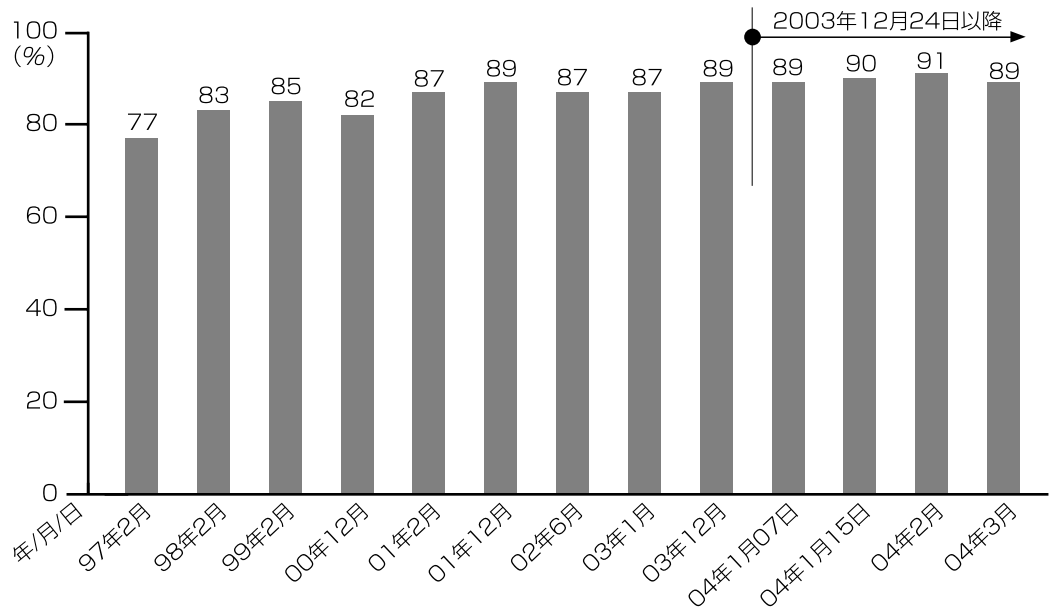
また、会員パッカー・団体による国際的なブランド化戦略の今後についてのパネルディスカッションが行われ、各企業は各海外市場の特性分析、海外市場向けブランド化実施に際しての問題点や、今後の姿勢を披露した。その他、畜種別、生産者、パッカーなどの業態別委員会に加え、二日目の全体会議では日本事務所を始め、主要市場の「BSEその後」についての報告や、市場アクセス問題、活動報告などが行われた。

日本関連では、消費者向けビーフ活動報告、ポークの広報活動の方向性、日本の牛肉市場の現状、ポークセーフガード発動の可能性など、市場アクセスに関連した報告が日本事務所スタッフにより行われた。

セーフティー関連
ニュース

●米国消費者のUSビーフに対する信頼度 (記事本文は2Pに)

「米国産牛肉が安全である」と回答したアメリカの消費者 (%)



NCBA提供